

## 明るい未来にするために

可児市立今渡南小学校 6年

中垣 結以

「たとえどんな理由があっても、人をきずつけるのは、絶対にしてはいけないことだと思うし、そんな人、頭がおかしいと思う。」私の友達がふと、私に言った。友達は、最近あった殺人の事件について話しているらしかった。その事件に対して、自分の意見を述べているようだ。けれど、私は友達のように思わない。疑問に思った私は友達に、「なんでそう思うの。」と聞いてみた。友達は、「人になにかをされて、許せないなって思ったことはないの。私はあるけどね。だって、人をきずつけてしまったら、きずつけられた人が他の人をきずつけてしまうかもしれないじゃない。」と言った。確かに友達のいう通り、どんどん「悪いこと」の輪が広がってしまう可能性もある。だけれど、私たちがなにかをされて、いやだなと感じるのと同じように相手にもなにか思うことがあるのだろう。

私がまだ、小学校低学年のころ、私に何でも命令してくる子がいた。その子に「僕が上にのるから、四つん這いになって。」と言われたことがある。正直、とてもいやだったけれど、その時の私は断ることが出来ないで、しぶしぶ言うことをきいていた。そのことを先生がを見つけ、話しをしたときに、その子は、当時独りぼっちだった私を楽しませるためにやっていた、というのを聞いた。つまり、相手からすると、親切心でやっていたことになる。けれど、四つん這いになったせいで、私の膝ははれていたし、手もしびれていた。おこっていた私は、その子のことは許さなかった。

私は、「こんなことされるのはおかしい。」と思っていたけれど、私の「おかしい」は、相手にとっての「普通」で、逆に、私の「普通」は相手にとっての「おかしい」になるのかもしれない。相手は、知らず知らずのうちに私をきずつけてしまっていたけれど、もしかしたら私も知らず知らずのうちにだれかをきずつけてしまっているかもしれない。そういった、心のすれ違いによって、人に迷惑をかけてしまう行為が生まれると思う。

「だけれど、相手にも思うこと、考えていることがあるわけだし、仕方ないとまでは言わないけど、その人の意見を理解してあげるのも人に迷惑をかけてしまう行動を防ぐ一つの方法なんじゃないかな。」最初の話の続きで友達に言った。「相手の考えていることと、自分の考えていること、それぞれの意見が違うのはあたりまえ。でもそのあたりまえに違う意見を共有しないから、すれ違いが起きて人に迷惑をかけてしまう行為がおこるんだと私は思う。」

お互いの気持ち、考え、心を理解して、人に迷惑をかける行為、犯罪や非行をしてしまう前に、相手の気持ちをきいて、自分の考えを共有できたら、犯罪や非行は、減ると思う。心のすれ違いが少なくなるのだから。けれど、これができている人は、非常に少ないと思う。こんなに簡単なことができないのは、やはり「自分には関係ない。」だとか、「非行をしている人と話すなんて。」という、周りの目を気にしすぎている思いがたくさんあるからだと思う。周りの目を気にしなければいけない社会。そんな社会には問題がたくさんあると思う。私は、少しでも社会を明るくするために、変な偏見は持たず、身の回りのことから、心のすれ違いが起きないように意識して、社会を明るくする運動に貢献していきたい。